

卒業生からのメッセージ



石橋 葵さん
132期卒

大学院進学

学部時代の研究テーマをさらに深めたいという思いから、大学院に進学しました。



私は社家の出身ではありませんが、幼少の頃から所属しているボーイスカウトの育成母体が香取神宮であったことから、神道に関心を抱くようになりました。いつも神道・神社と関わるスカウト活動の中で、「神職」への憧れが育まれていきました。

「郷土の伝統文化や文化財を、後世に守り伝えたい…」そんな思いから、神道文化学部への入学を決意したのです。



学部では、神道に関する専門性の高い知識・技能を幅広く学ぶことができました。3・4年次の基幹演習では、古代における神社の立地環境が、祀られる神の性格と密接に関係していることに興味を抱きました。古代・中世の香取神宮における在地的な信仰とその変遷について、自分なりの研究論文を纏めることができました。



サークル活動では、「青葉雅楽会」に入会し、日々の稽古と演奏の機会を通して、「伶人」として神前奉仕する者のスキルと心構えを学びました。特に令和四年度の観月祭では、共に研鑽を積んだ仲間たちと、日頃の成果を存分に披露することができました。観月祭でのご奉仕の経験は、学生生活最大の宝物です。



卒業後は、学部での研究テーマをさらに深めたいという思いから、本学の大学院に進学しました。笹生衛先生のゼミで、中世の香取神宮の信仰とその歴史的背景について取り組んでいます。また雅楽についても、地元の「香取雅楽会」で稽古に励む日々です。



大学院修了後は、神社界に奉職するのが目標です。本学で得た多くの経験と知識を活かしながら、「学者神主」として地域社会に貢献できるよう、今後とも弛まぬ精進を続けていきたいものと願っています。



志願者の皆さん、神道文化学部での学びは、必ずやあなたの未来を切り開く力となることでしょう。入学を心からお勧めします！

石橋さんはこんな学生でした！



笹生 衛 教授「日本考古学」「日本宗教史」(「宗教学演習Ⅰ・Ⅱ」担当)

石橋さんは、学部生時代から勉学・研究に励む一方で、祭祀や舞楽の修養にも熱心に取り組んできました。現在、大学院で香取神宮の祭祀・信仰に関する研究を進めています。将来は、祭祀の実践と研究を兼ね備えた神職さんとして活躍してくれるものと期待しております。

神道文化学部独自の各種講座 神道文化学部では、就職・奉職、および就職・奉職の「その先」を見据え、素養とスキルを高めるための各種講座を開催しています。(無料)



女子学生のための就職セミナー マナー講座 書道講座 和歌講座 衣紋講座 田んぼ学校 御幣講座

オープンキャンパス
(渋谷キャンパス)

8月2日(土)・3日(日)・23日(土)

お問い合わせ：入学課 電話 03-5466-0141

※学年は取材時のものです

神道文化学部の就職力!



齊藤ゆいさん(神道文化学部学生)制作「Kunitsukami Collection」

もっと日本を。もっと世界へ。

神道文化学部から一般企業へ



林 若那さん
神道文化学部 4年

就職内定

どこの業種、どの業界の方々からも、神道文化学部というユニークな学部を巡って、興味津々のお尋ねをいただきました。



「宗教や神話を学べる大学に進学してみたい…」
そう漠然と考えていた高校生の頃、令和の大嘗祭の報道に接しました。あらためて日本の宗教観や歴史に興味を抱くようになったのです。そのことが神道文化学部という学部を知るきっかけになりました。



「社家出身ではない私が、学部になじめるのだろうか…」当初はそんな不安もありました。けれども、それは完全に杞憂でした。神道文化学部には、社家ではない学友たち、宗教文化を学びたくて入学した学友が、数多く入学していたのです。



神道文化学部のカリキュラムでは、一方的に話を聞くだけではない討論型の授業が数多く開講されています。学生参加型の授業形態は、就職活動における「自己表現力」を培う上で、大きな経験値になりました。さらにこの学部ならではの資格「宗教文化士」取得は、自分がこれまで学んできたことを形にすることができたという点で、これまた就職活動での大切な武器になりました。



神道文化では神道学・宗教学に関わるたくさんの科目が開講されていますが、最も印象に残っているのは「宗教芸術研究」です。様々な博物館、美術館の関係者の方々から、芸術品の宗教的な価値はもちろんのこと、展示手法や集客方法について、貴重なお話を伺うことができました。また写真家の方などアーティスト事業で活動されている



方からもお話を伺いました。芸術に対する見方が、ぐっと広がる思いでした。



私は神職資格も履修していたので、神社への奉職も可能でしたが、最終的には民間企業への就職を決めました。就職活動では業界を絞らなかったので、IT、コンサル、メーカーなど様々な会社の面接を経験しました。どこの業種、どの業界の方々からも、神道文化学部というユニークな学部を巡って、興味津々のお尋ねをいただきました。おかげさまで面接官との話題作りで困ることはありませんでした。

卒業後は、教科書や学習参考書、博物館等に関連する書籍を扱う企業に就職します。神職資格・学芸員資格の取得で得た知識とスキルを、ぜひ活かしていきたいと思っています。



大学生は自分で履修科目を決めることができる自由があります。その反面、ともすればズルズルと「さぼる」こともできてしまう環境です。興味を持てないことを続けるのは本当につらいことだと思います。

自分が本当に興味を持っていることを見つけること。それこそが、楽しいキャンパスライフへの第一歩です。志願者の皆さん、どうか頑張ってください！

先生からのメッセージ



平藤 喜久子教授
「神話学」「宗教学」

神話学を学ぼう！



私の専門は、神話学です。神話というと誰でも知っている言葉ですが、その神話を専門的に学ぶ神話学となると、専門とする研究者も少なく、学べる大学は多くはありません。神道文化学部では、神道だけではなくさまざまな宗教文化を広く学ぶことができ特徴としており、そのなかには神話学も含まれています。



神話は、人類の歴史とともに存在したとされる物語です。この世界はどのようにして造られたのか、人間はどのようにして誕生し、なぜ死ななければならないのか。これらは人類がつねに抱いてきた問いでしょう。その問いに答えようとする思いは、神話を生み、科学も発展させてきました。神話について考えることは、神話を必要とした人間について考えることだと思っています。私は、さまざまな神話を比較したり対照させたりしながら、人間について、文化について考える学問が神話学だと考えています。



神話は、古い文献に残されている場合が多いので、とっつきにくく、難しそうに思われるかも知れません。日本神話も『古事記』や『日本書紀』を読むのは簡単とはいえません。しかし、手軽に手に取ることのできる現代語訳から学び始めることもできます。



ギリシャ神話や北欧神話もたくさんの日本語訳があります。まずは神話の世界に触れ、人間が生みだしてきた文化遺産の面白さを感じてみませんか？



林さんはこんな学生！

とにかく知的好奇心が全身からあふれ出ているような林さん。授業のときはいつも目を輝かせて聞いています。有志でできた江島神社ツアーでも、ムードメーカーとして盛り上げてくれました。



平藤先生はこんな先生！

平藤先生は宗教文化だけでなく、歌舞伎や漫画などの分野にも造詣が深い方です。演習では多岐にわたる視点から助言を頂けるので、研究の視野がどんどん広がっていきます。毎回の発表が楽しみでした。大学以外の活動も沢山なされている先生なので、四方山のお土産話も演習の醍醐味でした！

平藤 喜久子 教授(「宗教学演習Ⅰ・Ⅱ」担当)

林 若那さん(「宗教学演習Ⅰ・Ⅱ」受講)

神道文化学部から神職へ



相澤 なつみさん
神道文化学部 4年

奉職内定

神道文化学部で、
自分の「好き」を
究めましょう！



私は社家の出身ではありませんが、かねてから神社の神楽舞の美しい舞姿に、一方ならぬ憧れを抱いていました。

「こんな美しい舞を育んだ神社や神道について、もっと深く知りたい…」

そんな思いから神道文化学部への進学を決意したのです。



学部では日本の神話や神道の歴史を詳しく学ぶ一方、実際に神社でお手伝いをする「助勤」に励みました。神社のご社頭で、多くの方々と出会い、さまざまな経験を積みさせていただきました。また憧れであった神楽舞については神楽舞サークル「みすゞ会」に入って日々お稽古に励みました。



神道文化学部では、神社や神道について学ぶ充実した授業科目が揃っています。その中で、やはり一番の学びは、祭式作法を学ぶ演習科目でした。白衣袴での学修は、とても新鮮でした。学友と教え合い、助け合いながらの実技は、本当に楽しいものでした。



学びの仲間は、同級生だけではなく。先輩・後輩共々に学び合い、助け合うことが出来るのも神道

文化学部の魅力です。学部行事の観月祭では、2年次に浦安舞で、3年次に舞楽で、舞台上に立つことができました。学部の頼もしい先輩たち、一生懸命な後輩たちが、私たちをしっかりと支えてくれました。観月祭は、私にとって学生生活最大の「感動体験」でした。



私が入学した際はコロナ禍の只中でした。授業はすべてオンラインで、十分なサークル活動もできませんでした。他の学生と会う機会すら稀でした。

そのため、コロナが終息し、大学に直面で通えるようになった時には、「これからは何事にも後悔が無いよう、全力で取り組もう」と決意したのです。

キャンパスで友人たちと関わり合えることのありがたさ。やりたいことが存分にできる神道文化学部という環境。只々感謝の思いでいっぱいです。



卒業後は、神社に奉職します。これからも神社のご社頭で、多くの方々と関わり、様々な事柄について学んでいきたいと願っています。

志願者の皆さん、神道文化学部で、自分の「好き」を究めましょう。入学の暁には、きっと稔り多い学生生活が待っていますよ！



先生からのメッセージ



鈴木 聡子准教授
「神社史」「神道史」

神社の年中行事を
研究しています



私自身、神道文化学部になる前の、文学部神道学科の卒業生です。学部で学んだあと大学院で研究を続け、平成31年に神道文化学部の教員として着任しました。私の研究は、神社の祭りの歴史についてです。その中でも特に神社で一年を通して恒例に行われる神社年中行事が、いつ、誰によって、どのように創始されたのかということに興味を持って調べております。



このテーマで研究するためのきっかけは、恩師と学友の存在です。学部学生時代、同じ志を持つ仲間と国の神社に参拝し、その歴史と文化に触れたことで生じた興味や疑問などを、共に調べ語り合ったことにあります。また、調べていく過程では先生と密に御指導をいただき、助言を受けながら学びを深めていきました。このような何物にも代えがたい貴重な経験こそが私の研究テーマの出発点となったのです。



本学部の魅力は、私が経験をしてきたように、常に学生に寄り添いながら学びを示すなどして学生生活を見守ってくれる学部教員の存在と、「神道文化」という共通の興味関心を強く持ち全国から集まって来る学友の存在にあると思います。また、学生達が主体となって舞楽や管絃を奏する10月の観月祭などを執り行っ

ていることも魅力の一つです。皆で一体となって行事を運営する学生の姿はなんとも充実感に満ちたものがあります。このような環境のなかで、同じ志を持つ学友とともに自分らしい学びを深め、充実した学生生活を送ってみてはいかがでしょうか。



相澤さんは
こんな学生！

相澤さんは、学生生活では神楽舞サークルみすゞ会に所属して、舞を熱心に練習し、特に学部行事の観月祭では、行事運営に教職員とともに積極的に取り組み、また、舞楽や浦安の舞などの舞い手として活躍したことが印象深いです。また、授業でも様々なことに真面目に取り組み、その姿は、他の学生の模範となるものでした。相澤さんならではの真摯な姿勢を活かし、神社界で活躍することを期待しております。

鈴木 聡子 准教授（「神社祭祀演習ⅢA」担当）



鈴木先生は
こんな先生！

鈴木先生はいつも優しい笑みを浮かべていらっしゃいます。授業中でもそれは変わりません。分からない様子の人がいないか、私たちをよく見てくださっています。学生たちから、可愛い愛称で親しまれています。

相澤 なつみさん（「神社祭祀演習ⅢA」受講）

神道文化学部から神職へ



朝田 慎之介さん
神道文化学部 4年

奉職内定

「神道を学びたい、神職を目指したい」そんな思いがある人にとって、最高の環境が整っています。



私は岐阜県の飛騨高山に生まれ育ちました。社家の出身ではありませんが、幼い頃からいつも神社や祭りが身近にありました。地元のお祭りへの参加は、大袈裟に言えば私の生き甲斐そのものでした。「神道文化学部に入學して、神職を目指そう！」中学生の頃には既にそう決意していたのです。



待望の学生生活では、数え切れぬほど多くの学びがありました。その最たるものは、祭式の学びによって祭典奉仕の「こころ」と「かたち」を学んだことです。1年次から祭式サークル瑞玉會に所属して、先輩の厳しいご指導のもと、祭式作法を身に付けました。それ以来、大學神宮でのご奉仕を通して、その実践に努めて参りました。



私が入學した頃はコロナ禍の真只中でした。学校にも行けない、サークル活動もままならない日々が続きました。しかし、コロナ禍は、一人でいるからこそできる学びの機会でもありました。大変な時だからこそ、「今できることをやる」ことの大切さを身に沁みて痛感しました。



印象深かったのはゼミの先生でもある藤本頼生教授の「神道教化概論」です。神社を、神道を、次世代に手渡していくために、私たちは何をしなければならないのでしょうか。先生の授業で、深く思いを巡らすことができました。「神職たるもの、情熱をもって神道



教化に努めなければならない」。この先生のお言葉は、心に刻まれています。



神道文化学部は全国各地から多くの仲間が集まります。学友たちが、それぞれの地域の郷土色を身に纏っているのが、わが学部の面白いところです。胸を張って肩を組める「同期」の仲間たちがいることの有り難さを、いつも実感する日々でした。



卒業後は、天皇陛下より幣帛が奉られる勅祭の神社から奉職内定を頂戴しました。勅祭社にご奉仕することの重さを十二分に噛み締め、御祭神の御稜威を仰ぎながら、誠心誠意で務めさせていただきたいものと念願しております。



志願者の皆さん、神道文化学部は、ひとことで言っても楽しい学部です。「神道を学びたい、神職を目指したい」そんな思いがある人にとって、掛け値なしに最高の環境が整っています。先生方も全力でバックアップさせていただきます。皆さんの入學を、心からお待ちしています！

先生からのメッセージ



藤本 頼生 教授
「近代神道史」
「神道教化論」
「神道と福祉」

神社・神道の可能性を一緒に探そう！



私は、祭礼の齋行に携わる総代や氏子の活動に代表されるような日本の各々の地域に所在する神社と人々との関係、あるいは神社や神職の諸活動に関心を持ちながら、神社神道の社会的な役割は何かという点について研究を進めてきました。



その一つは近代以降の神社や神職にかかる制度の変遷などを踏まえながら、神道教化活動をはじめ、神社の管理や運営に関する問題、政教事象などについても研究を進めることで、現代における神社神道の姿についても明らかにしようと試みています。



もう一つは、神社や神職の行う社会的な活動のなかでとくに福祉的な領域にかかわる活動に着目し、神道と福祉とのかかわりや神道の社会貢献活動について研究を進めており、近年は神社においても御祭神として祀られる歴代天皇や皇后の慈恵救済活動や近代以降において篤志的な活動を行った神職、神社の活動などについても研究を進めています。



年々進む高度情報化社会やグローバル化の波の中で、さまざまな価値観や考え方が現代の日本社会のな

かでは混淆しています。それゆえに今後ますます、様々な多様性を包含する聖なる箱のような存在である神道の理念やあり方は、より注目されてゆくものと思われれます。



神祭りの姿や形、それを形作る組織とネットワークの奥にある人々の神社への信仰のありようを窺いながら、その多様性を包含した聖なる箱のなかにある共有の価値を見つけ出すべく、神社・神道のもつ可能性を一緒に探しましょう。



朝田さんはこんな学生！

朝田さんは学生時代に瑞玉會に所属し、学業とともに神社祭式行事作法の実践や雅楽などを学ぶサークルで活躍していました。ゼミでは、近代に一部の神社で奉られていた神饌幣帛料供進の問題について取り組み、根気よく「幣帛」そのものの意義とともに近代の神社関係法令などの制度との兼ね合いを明らかにすべく、史料に向き合っていました。そのひたむきな気持ちを胸に、これからは神職として活躍されることを期待しています。

藤本 頼生 教授(「神道学演習Ⅰ・Ⅱ」担当)

藤本先生はこんな先生！

藤本先生は、近現代の神道史、神道と福祉、現代社会などなど、様々なテーマについて精通しておられます。多岐にわたるご見識、圧倒的な知識量には、いつも圧倒されるばかりです。単に学問を学ぶだけでなく、「神主としてどうあるべきか、人としてどうあるべきか」ということについても、情熱をもってご教授いただきました。折々入る関西弁が、またいい味を出しています。

朝田 慎之介さん(「神道学演習Ⅰ・Ⅱ」受講)